

## 「ねりま小中一貫教育フォーラム」ご案内

練馬区教育委員会では、平成 23 年 4 月に施設一体型小中一貫教育校「大泉桜学園」を開校すると同時に、施設が離れた小・中学校を小中一貫教育研究グループに指定し、小中一貫教育の全区的展開にむけて取組を進めています。平成 25 年 9 月からは、文部科学省から「小中一貫教育校による多様な教育システムの調査研究」を受託し、研究を進めています。

今回のフォーラムでは、平成 25・26 年度研究グループや 2 年間の研究期間を終了した小中一貫教育実践校の取組を発表するとともに、文部科学省調査研究の経過報告や学識経験者によるシンポジウムを行います。

日 時 平成 27 年 1 月 23 日（金） 13:45～16:00（受付開始 13:15）

会 場 練馬文化センター小ホール

【交通】西武池袋線・西武有楽町線・都営大江戸線「練馬駅」北口徒歩 1 分  
お車でお越しの方は、隣接の練馬駅北口地下駐車場（有料）をご利用ください。

内 容

第一部 文部科学省調査研究の経過報告

小中一貫教育研究グループ・実践校・小中一貫教育校の発表

【発表内容（予定）】

- ・施設が離れた小・中学校における 9 年間を見通した課題改善カリキュラム
- ・施設併設型校舎を活用した小中一貫教育プログラム
- ・施設一体型小中一貫教育校における取組 など

第二部 シンポジウム「さまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方を考える」  
（裏面参照）

一般参加定員 200 名（申込先着順）

参加費 無料

申 込 平成 27 年 1 月 9 日（金）までに、メール・ファクス・ハガキに  
ねりま小中一貫教育フォーラム参加希望 参加希望人数  
代表者の氏名・連絡先メールアドレスまたは電話番号  
学校関係者・教育委員会関係者については所属名  
を明記して、下記までお申込みください。

定員を超過してご参加いただけない場合には 1 月 16 日（金）までにご連絡します。

問合せ 練馬区教育委員会 教育振興部 教育企画課 新しい学校づくり担当係  
電話（03）5984-1034 FAX（03）3993-1196  
〒176-8501 練馬区豊玉北 6-12-1  
メールアドレス atgakko@city.nerima.tokyo.jp

## シンポジウム

# さまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方を考える

練馬区では、小・中学校間の距離や通学区域の重なり具合、学校規模などがさまざまに異なる状況で、それぞれの状況に応じた小中一貫教育を進めています。

平成25年9月から文部科学省の委託を受けて、小中一貫教育校による多様な教育システムの調査研究を実施しています。研究をご指導いただいている文教大学の葉養教授、帝京大学短期大学の岡田教授、大妻女子大学の酒井教授、十文字学園女子大学の綿井教授をシンポジストにお迎えして、学校間の距離や通学区域などさまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方についてお話いただきます。

### シンポジスト

#### 文教大学教授（練馬区小中一貫教育推進会議委員長） 葉養 正明 先生

文教大学 教育学部心理教育課程教授。国立教育政策研究所 名誉所員。専門は、教育学、教育社会学。文部科学省学校施設と他の公共施設等との複合化検討部会委員などを務める。主な編著書に『よくわかる教育学原論』『人口減少社会の公立小中学校の設計』『よみがえれ公立学校—地域の核としての新しい学校づくり』など。



#### 帝京大学短期大学教授（同 副委員長） 岡田 行雄 先生

帝京大学短期大学 現代ビジネス学科教授。専門は、理科教育、学校経営。足立区教育指導室長、全日本中学校長会総務部長、文部科学省学校の第三者評価のガイドラインの策定等に関する調査研究協力者会議委員などを務める。練馬区立上石神井中学校長時代に小中連携を実践。主な著書（共著）に『中学校理科教科書「新しい科学」』など。



#### 大妻女子大学教授（同 小中一貫教育校検証部会長） 酒井 朗 先生

大妻女子大学 教職総合支援センター所長・教授。専門は、教育社会学、教育学。中央教育審議会教員養成部会委員、中央教育審議会学校段階間の連携・接続等に関する作業部会委員、日本教育社会学会教育部長などを務める。主な編著書に『教育臨床社会学の可能性』『よくわかる教育社会学』『保幼小連携の原理と実践：移行期の子どもへの支援』など。



#### 十文字学園女子大学教授（同 小中連携推進教員育成研修部会長）

#### 綿井 雅康 先生

十文字学園女子大学 人間生活学部 人間発達心理学科教授。専門は、発達心理学、認知心理学、コミュニケーション心理学。文教大学情報学部助教授などを務める。主な著書（共著）に『わかりやすく説明する技術』『「精神的充足・社会適応力」評価尺度の作成』など。

